

バイオ・ラッドラボラトリーズ ddPCRセミナーのお知らせ

演題：『ドロップレットデジタルPCRの基礎原理、

qPCRとの違いからその具体的な応用アプリケーション』

演者：バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社

廣中 克典氏、
平野 光博氏



日時：令和8年8月3日（月）17：00～18：00

開催方法：現地(ADRES医科学研究支援部門1階多目的ルーム)
オンライン (Microsoft Teams) ハイブリット開催



申込：下の事前申込フォームよりお申し込みください。
当日参加できない方も登録していただくと
後日、録画した動画をご覧いただけます。

<https://forms.cloud.microsoft/r/x6RECchPMt>
(締切：令和8年7月31日（金）17：00）

開催日が近づいてきましたら、入力いただいたメールアドレスに
説明会のリンクをお送りいたします。

内容

遺伝子定量は基礎研究から応用研究、更には最先端研究の分野においても非常に重要な技術です。従来はその代表であるqPCRが広く用いられてきましたが、近年これを大幅に超える高精度・高感度のデータを取得できる「ドロップレットデジタルPCR (ddPCR)」技術が開発されました。ddPCRは、qPCRと同様な化学反応系（TaqMan Probe反応系、インターカレーションダイを用いた反応系）を使用するものの、解析原理が全く異なる新しいタイプの遺伝子定量技術で、PCR反応阻害物質の影響を非常に受けにくく、非常に低コピーの遺伝子から安定的に検出することが出来る特色を有しています。このため、ddPCRは基礎研究は勿論、臨床研究や抗体医薬、核酸医薬、遺伝子・細胞治療、再生医療、免疫細胞医薬、マイクロバイオーム医療などの最先端創薬モダリティ開発などにおいても注目を浴びるとともに、その活用が始まっています。

今回のセミナーでは、13800報を超える論文実績を誇る弊社QXシリーズ droplet digital PCR(ddPCR)について、その基礎原理からqPCRとの違い、更には様々なアプリケーションについて、興味深い実際の論文を交えつつ、具体的にご紹介させていただきます。

＜お問合せ先＞

愛媛大学学術支援センター（ADRES）医科学研究支援部門
(内線: 5179, ikagaku-support@ehime-u.ac.jp)